

平成28年度事業の審査結果発表

(平成29年度ボランティア活動補助金(継続事業)として申請のあった事業に対する審査会コメント)

● 18歳で就職自立を目指す若者への就労支援 ((特非) フェアスタートサポート)

【長坂会長】 採択させていただきました。おめでとうございます。

十分な支援が行き届いているとは言えない児童養護施設で暮らす子どもや若者に対して、仕事で役に立つ技術や情報を提供し、就労まで支援をするという活動を高く評価しました。就職弱者に対する支援はなかなか難しい課題。皆さんの団体では施設の職員だと就労の専門知識や、企業とのつながりもないわけであります。その中で、地域の中小企業と関係を持ちつつ、しかも地場の中小企業50社とも協力をしつつ、そういうネットワークを使いながら若者の個性を活かしたマッチングをしていくと、その仕組みそれ自身が大きな重要なモデルになると考えています。

支援のひとつとして取り組まれているパソコン教室では、受講者からMOS試験合格者が出るなど一定の成果があり、就職する際に有利な資格を若者に取得してもらい企業とのマッチングに繋げているところも大切であり高い評価に繋がりました。

今後は児童養護施設だけでなく、定時制高校にも取り組み、アプローチを広げていただけるとプレゼンテーションでも語られており、資料も分かりやすく共感もてました。大いに期待しています。現在ホームページで実績として紹介している「実際に支援を受けた若者からの喜びの声」も寄せられております。ああいう声を今後さらに増やせるように大変期待しております。そういう若者の就労支援の一つの在り方としてモデルを作っていただければ、私たちとしても皆さんのような団体を支援できて幸せだと思いますので宜しくお願いします。

● アルクヒューマンセンター・アルク相談事業 ((特非) 市民の会 寿アルク)

【高橋委員】 おめでとうございます。「市民の会寿アルク」が寿地区という神奈川県において大きな課題を抱えている地域で四半世紀にわたってアルコール依存症からの回復をサポートされてきたことに敬意を表します。その実績の上に行なわれる、今回の相談支援事業強化へのチャレンジが、アルコール依存症の問題解決に大きく寄与することを期待して採択しました。

この事業でさらに蓄積されるであろう知見を「市民の会寿アルク」のダイケア施設の運営にも活かして下さい。

また、相談員の育成については、その育成過程をモデル化することで、「市民の会寿アルク」の人材育成のみならず、将来的には同様の活動を行う他の団体にも役立ててもらえるようになればと期待します。

貧困格差、高齢化といった社会の課題とアルコール依存症は切り離せないものだと思えます。この相談事業を通じて、地域の抱える課題と、その解決に向けた新たなニーズの掘り起こしにも努めていただきたいと思います。引き続き応援したいと思います。

● 小中学生向け ロボット・プログラミング教室事業 ((特非) ロボロボ・Club)

審査会では、運営に携わる学生の皆さんがプレゼンテーションをされました。大変明確で本事業に対する積極的な姿勢が感じられるものでした。特に、定期教室だけではなく、出張教室において、子どもたちの行動や喜びの発見などから、自らの事業の有益性を感じ取ったこと、それゆえに、出張教室を増やしていきたい、という説明には説得力がありました。

子どもたちと教室を実施する学生双方にとって学びの大きい事業であることがうかがえました。基金21の補助金は、そのような団体の新たな挑戦を応援することを重視している点から、採択とさせていただきます。

このような観点から、事業1である定期教室は、従来から進められてきた事業であり、プレゼンテーション時の解答からもその旨示されたため、本補助金対象から外すことにしました。

一方、「経済的余裕が無い家庭の子にも科学への興味や未来の夢を持つ機会を増やすことを事業2出張教室の成果に書いていただいている点に大いに期待するところです。どのようにそのような対象とする子どもたちに出張教室を届けることができるのか、よくご検討のうえ進めていただくこと、そして、できるだけ、当初の計画通りの回数をこなしていただくことを期待しています。

さらに、本事業は収益の得られる教室事業ですから、今後の持続可能な事業モデルの構築を念頭におきながら進めていただきたいと思います。

● **事業名：高校図書館内居場所カフェ事業「ぴっかりカフェ」**
（（特非）パノラマ）

申請通り採択いたします。

この取組みは、全国でも事例が少なく、モデル性のある素晴らしい取組みだと期待いたします。

家庭環境等に様々な課題を抱えている生徒たちが、図書館というオープンな場所で、コーヒーやお菓子をつまみながら、地域のボランティア等の大人たちと会話し、そこから自然な形で生徒の悩み相談につながることは、生徒にとって生活そのものが一歩改善できる取組みと考えます。

この取組みを更に他の学校に波及させるため、現在も各高校等から見学者を受け入れているということでしたが、より積極的に見学者を呼び込み、見学に来た方が田奈高校でのノウハウを学び、自分たちの高校等で実施できるような体制づくりを期待しています。

今後は、県の教員委員会等、行政の協力も得られるよう、先進的な事例として実績を積み、将来的には自立的・継続的な取り組みにつながることを期待したいと思います。

平成28年度ボランティア活動補助金（新規）は、2月17日の審査会懇談会でプレゼンテーションが実施され、3月2日の審査会で選考された。 結果発表は口頭ではなくメールにより行った。
